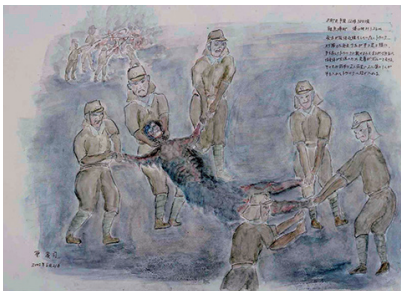
遺体を焼く

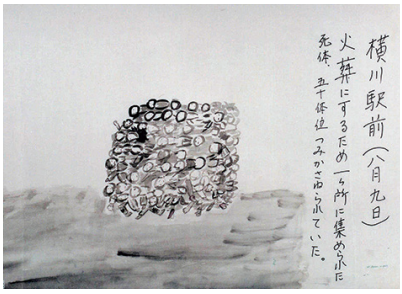
増え続ける遺体は、材木のように運ばれ、積み上げられ、薪や油を燃料に次々と焼かれました。市内の至るところで、何日もこの作業が続けられました。



5人がかりで死体をトラックへ投げ入れる

❶原廣司　❷13→70　❸8/7　❹国泰寺町一丁目

体全体がやけどのため皮膚がズルーとむける。そのため、両手に二人、両足に二人、首に一人が手を入れてトラックへ投げ入れる。



一か所に集められた遺体

❶塚本喜三　❷36→66　❸8/9　❹横川駅前

火葬にするため集められた死体。50体ぐらいつみかさねられていた。

口や鼻から泡を出している遺体

❶桑本トキコ　❷41→70　❸8/9　❹加古町

他県から応援にかけつけた兵隊さんが死体を山のように積み重ねて火葬していた。何ともいえない臭いがした。

鳶口で集めた遺体の山を焼く

❶坪中愛子　❷13→70　❸8/7　❹比治山本町

二日目　比治山下横道　じごくの風景

川から引き上げた遺体を焼く

❶牧野俊介　❷29→86　❸8/7～9　❹－

焼け落ちた頭部を、スコップですくって投げ込む兵隊。手前には、焼けた骨を少しづつ入れる弁当箱。

満天の星空の下、次々と焼かれる死体

❶伊藤広江　❷31→61　❸8/8～　❹－

町のあちこちで穴が堀られやけただれた鉄骨を並べた上に死体がうず高く積まれ油をかけて焼かれていった。空を見上げれば何事も無かったように大小の星が輝いている。この情景をこの感慨をどう言い表わせばよいのでしょう。